

「県政ガイドあいち 2025」表紙デザイン審査会講評

総評

伊藤 勇吉 審査員

本年度も、バラエティ豊かな作品が集まりとても楽しい審査となりました。愛知県をどのように表現するかの難しさが応募者を悩ませると思います。その中でも完成度の高い作品たちが選ばれました。ただ、視点を変えてもう少し思い切った作品があっても良いのかなと思われます。

田中 篤至 審査員

例年通り、多くの作品が愛知県のアイコンとなるような食べ物、風景、動物などをちりばめるように配置したレイアウトでした。アイコンのうち一つを大きく扱う独創的な作品もありましたが、意欲的だな、と感じるものの、受賞には至りませんでした。採用（受賞）される基準は何か、ということをしちんと研究した応募者が多かったのだと思います。3DCGのイラストと2次元のモチーフを組み合わせる作品もいくつかあり、新しい技法を試す若いデザイナーの心意気を感じました。

和 祐里 審査員

選ばれた作品群からは、愛知の魅力を考えながら制作を楽しんでいる様子が伝わってきました。今後は、以下の点にも期待したいところです。

自分にしか描けない線を見つけ出し、表紙のオリジナル書体の制作や裏表紙への工夫、各地の名物を単なる記号化や描写をするだけでなく、独自性のある表現として昇華させてほしいと思います。

グランプリ作品講評

伊藤 勇吉 審査員

今回グランプリの作品は、非常に完成度の高い作品と思われます。構成、モチーフ、イラスト、デザインとクオリティーが高くグランプリにふさわしい作品だと思われます。

田中 篤至 審査員

落ち着いた茶系の色調なのに、キャラクターが浮き出て見えるようなレイアウト、色彩の感覚は見るものを楽しくさせます。金シャチャや招き猫、名古屋コーチン…すべてのアイコンを統一感のあるキャラクターにデザインする点は高い技術力を感じましました。世代を超えて受け入れられる作品だと感じましました。

和 祐里 審査員

細部までこだわり、描き込むことを楽しみながら描いている姿が想像できました。さらなる飛躍のために、線の質感の研究や、書体を学び、あらゆる表現を見つけてください。作品が実際に印刷され様々な方の手に渡る経験は特別なものでしょう。配布されている環境を見て感じたことをぜひ次の制作に活かしてください。